

# 雨の知識

1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10~20ミリ	やや強い雨	ザーザーと降る。	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要 ・側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
20~30ミリ	強い雨	どしゃ降り	・山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。 ・都市では下水道から雨水が溢れる。 ・都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。
30~50ミリ	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	・マンホールから水が噴出する。 ・土石流が起きやすい。 ・多くの災害が発生する。
50~80ミリ	非常に激しい雨	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	・雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、 ・厳重な警戒が必要。
80ミリ以上	猛烈な雨	息の苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。	

## 大雨注意報

大雨による被害が予想され、次の条件のいずれかになると予想される場合に発表されます。

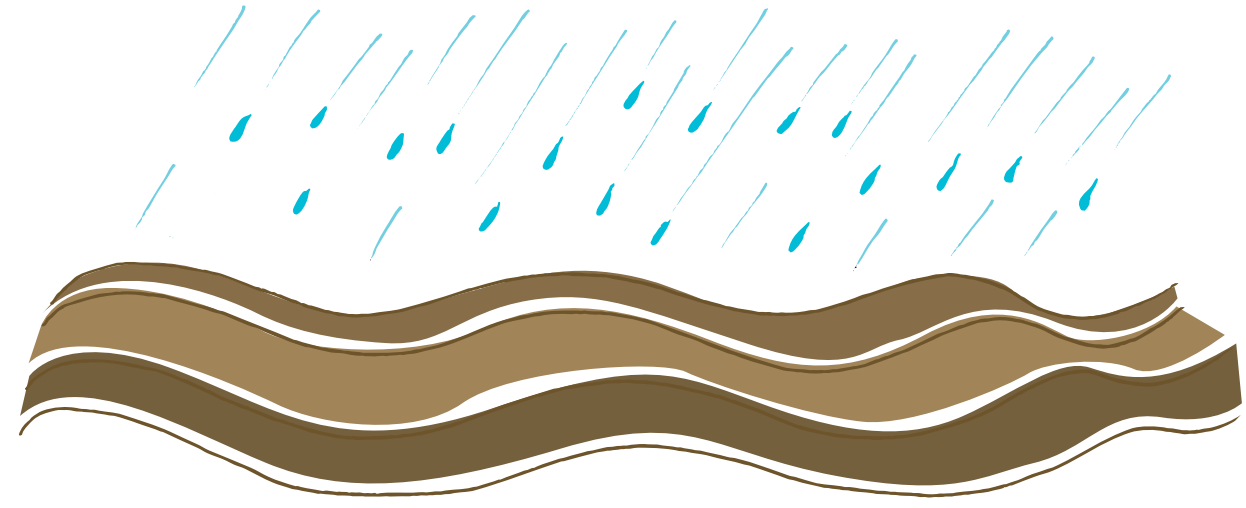
## 洪水注意報

洪水による被害が予想され、次の条件のいずれかになると予想される場合に発表されます。

## 大雨・洪水警報

大雨や洪水による重大な災害が予想され、次の条件のいずれかになると予想される場合に発表されます。

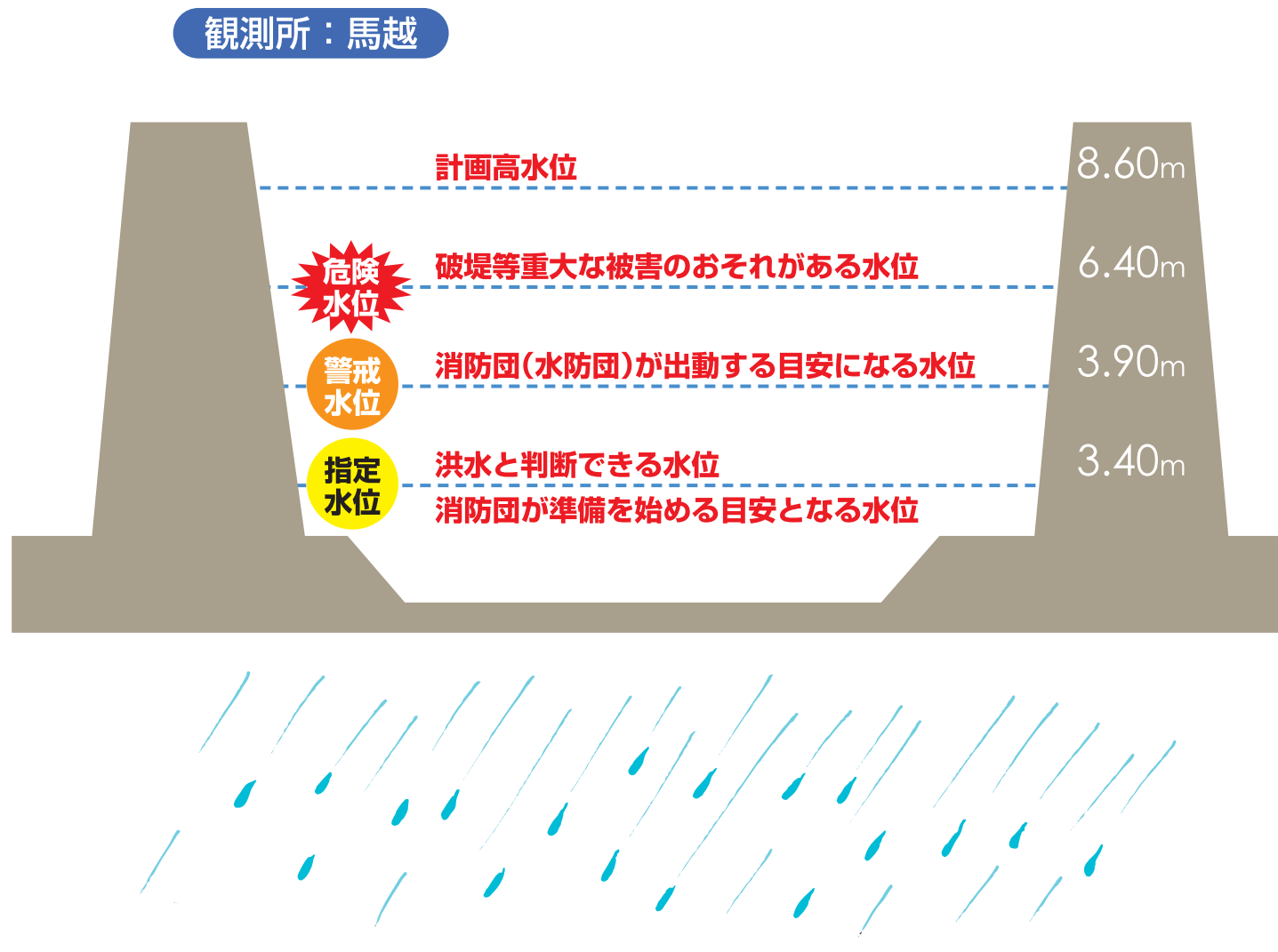
1時間雨量	30mm以上	30mm以上ただし総降水量が60mm以上	50mm以上ただし総降水量が100mm以上
3時間雨量	50mm以上	50mm以上ただし総降水量が60mm以上	80mm以上ただし総降水量が100mm以上
24時間雨量	会津：平地 70mm以上 山地 120mm以上	会津：平地 90mm以上 山地 140mm以上	会津：平地 130mm以上 山地 200mm以上



# 大雨による災害

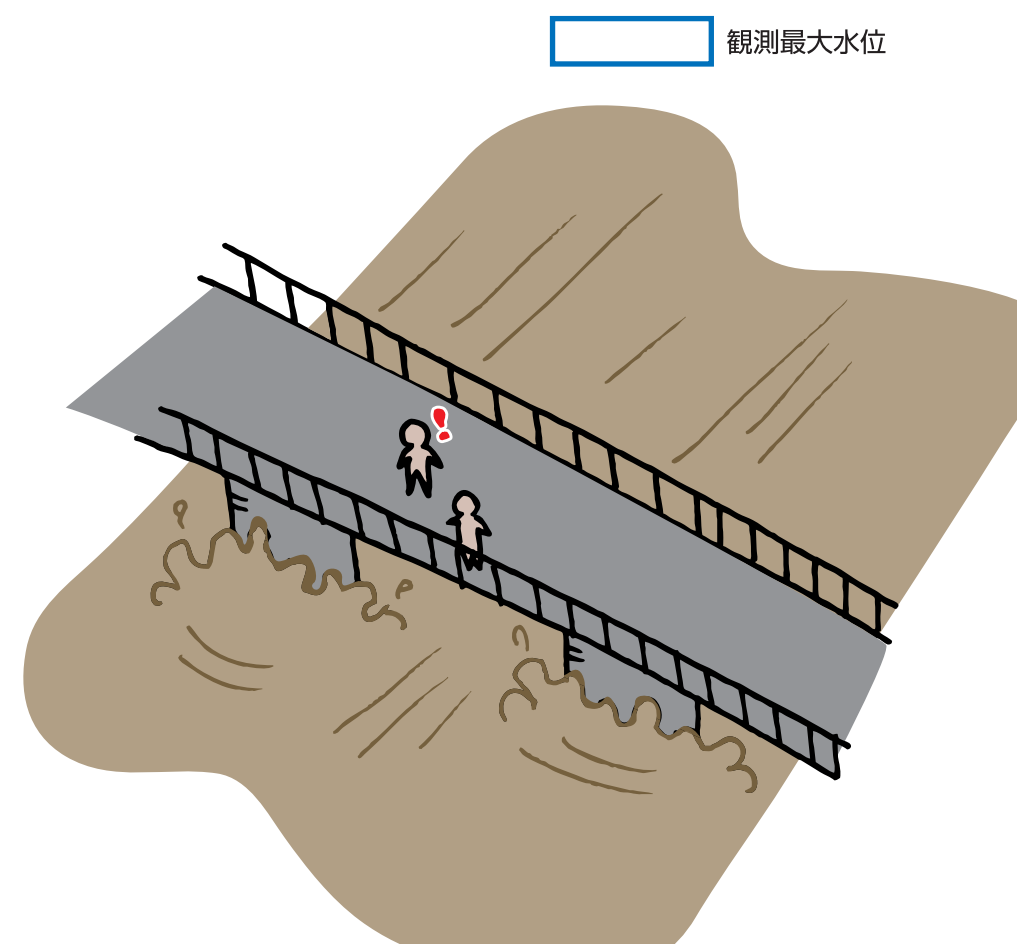
洪水災害	河川の水が増加して、堤防を越えたり、決壊することにより河川の水が溢れ出る。
浸水災害	河川の増水などによって、排水がおいつかず下水道や用水の水が溢れ出る。
土砂災害	前兆現象
かけ崩れ・山崩れ	崖や山の斜面が急に崩れ落ちる。 ・崖から水が濁る。 ・崖に亀裂が入る。小石が落ちてくる。 ・崖から音がする。
土石流	谷や斜面にたまった土砂や岩石が水とともに流れ落ちる。 ・山鳴りがする。 ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 ・川が濁ったり、流木が流れる。
地すべり	比較的ゆるやかな山の斜面が、ゆっくりと動き出す。 ・地面にひび割れができる。 ・井戸や沢の水が濁る。 ・崖や斜面から水が噴き出す。

## 避難勧告等の発令の基準となる水位

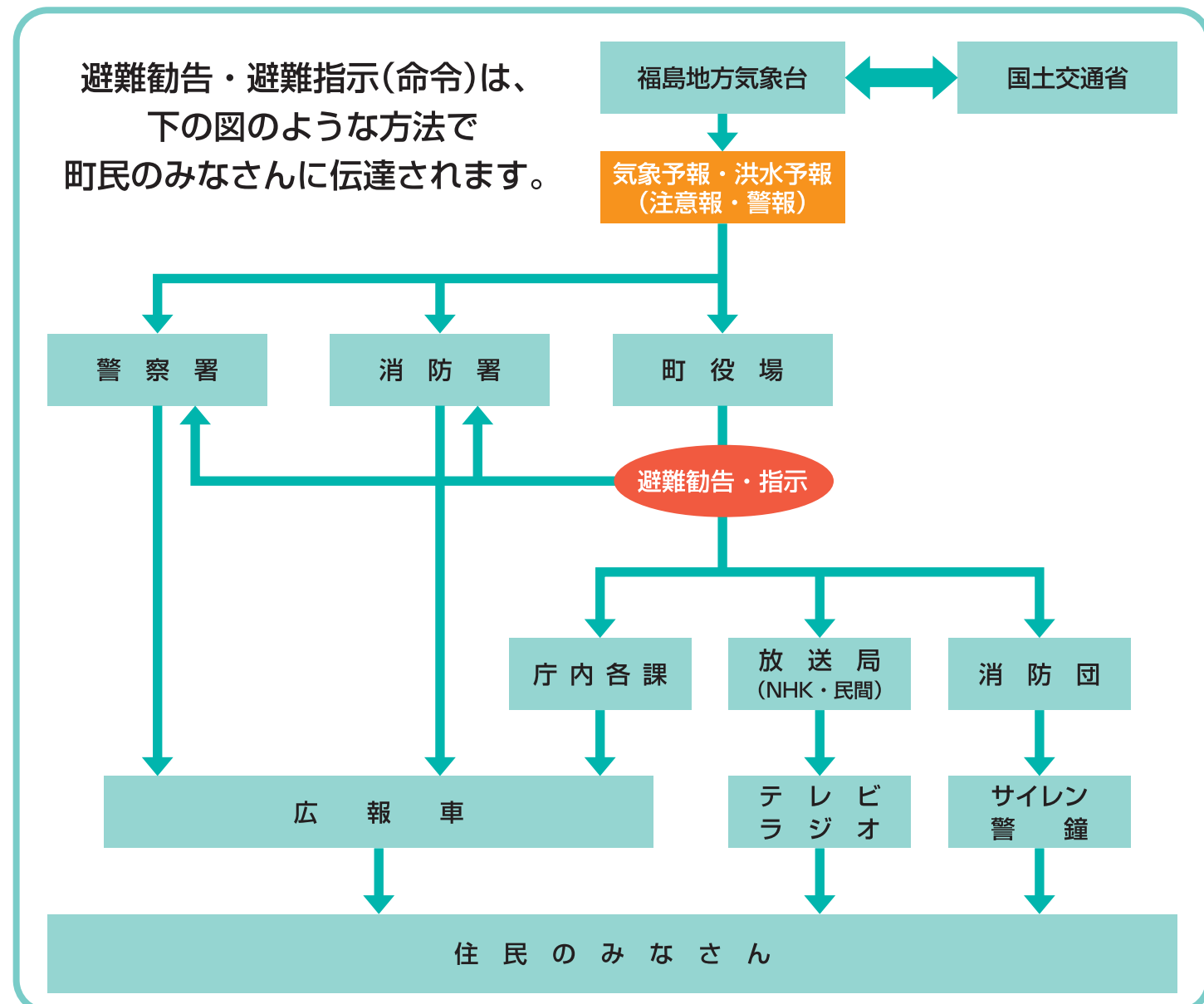


# 阿賀川 過去の洪水水位

地点	山科	宮古	馬越
計画高水位	7.83m	5.19m	8.60m
危険水位 破壊等重大な被害のおそれがある水位	7.60m	5.19m	6.40m
警戒水位 消防団(水防団)が出勤する目安となる水位	2.70m	2.00m	3.90m
指定水位 水防団が準備を始める目安となる水位	1.80m	1.50m	3.40m
昭和33年 9月 台風21号	7.16m		
昭和34年 9月 台風15号	6.28m		
昭和41年 9月 台風24、26号	7.42m	4.65m	
昭和53年 6月 梅雨前線	5.03m	2.22m	2.80m
昭和57年 9月 台風18号	7.72m	4.42m	3.60m
昭和61年 8月 台風10号	6.96m	3.51m	4.26m
平成 5年 8月 台風11号	6.47m	4.08m	5.57m
平成 7年 8月 前線	3.99m	0.90m	2.05m
平成10年 9月 台風5号	6.02m	3.82m	5.55m
平成14年 7月 台風6号	7.56m	4.30m	5.76m
平成14年 10月 台風21号	6.60m	3.98m	5.47m



# 情報の伝達経路



# 普段の心構え

- ラジオ、テレビで最新の気象情報・災害情報に注意する**  
台風シーズンなどの洪水の起りやすい時期には、テレビ・ラジオ・新聞の天気予報に注意し、天気の変化に気をつけましょう。
- 非常食や持ち出す物の準備をしておく**  
非常食には、調理の手間がからず、水をあまり使用しないものを選びましょう。(缶詰、インスタント・レトルト食品等) 飲料水も忘れずに確保しましょう。また、その他の非常持ち出し品として下表を参照して下さい。
- 避難場所や避難路を確認しておく**  
緊急・災害時に避難する所が定められています。避難場所がどこなのか、そこへ安全に行くためにはどう行けばいいのかわかるように確認しておきましょう。
- 大雨や台風で備えて家の周りを点検整備しておく**  
家の周りに吹き飛ばされそうなものはなく、窓や雨どいなどは痛んでないかを確認しておきましょう。また、排水溝が詰まったりしていないかなどの確認も必要です。普段からの確認と整備が、被害を最小限に抑える結果につながります。
- 災害弱者の立場で防災環境の点検整備をしておく**  
心身にハンデキャップのある方、お年寄りなどは普段から隣近所との交流を保つように心がけ、いざというときの避難の援助などを頼んでおくようにしましょう。耳や目の不自由な人の警報や避難勧告の伝達方法など、弱者に対応した地域の防災環境づくりを行いましょ。

# 非常持出品

- 携帯ラジオ**  
最新の気象情報や災害情報を聞きましょう。予備電池は多めに用意し、残量も日頃からチェックしましょう。
- 懐中電灯**  
できれば一人につき用意しましょう。予備電池も忘れずに。
- 救急医薬品**  
ハンコウコ、消毒液、備前、包帯、三角巾、脱脂綿など。薬を服用している方はお忘れなく。
- ろうそく**  
マッチ、ライターと一緒に準備しましょう。
- 非常食**  
手間がからず、水を使わない缶詰、インスタント食品を選びましょう。\*缶詰も忘れなく。
- 水**  
市販のミネラルウォーターを準備しておきましょう。
- 衣類等**  
下着、雨具、ジャンパー類、軍手、タオル
- 防災ずきん・ヘルメット**  
避難の際の安全確保のために用意しておきましょう。
- 貴重品**  
現金、預金通帳、印鑑、保険証など。いざというときすぐ持ち出せるよう保管場所を決めておきましょう。
- ロープ**  
万が一の緊急脱出や救助などに役立ちます。
- 緊急連絡先ノート**  
緊急時に必要な連絡先や重要事項などを記入しておきましょう。筆記用具も忘れずに。
- その他**  
ちり紙、歯磨きセット、生理用品、ポイ袋【高齢者や体の不自由な方のいる家】おむつ、おんぶひも

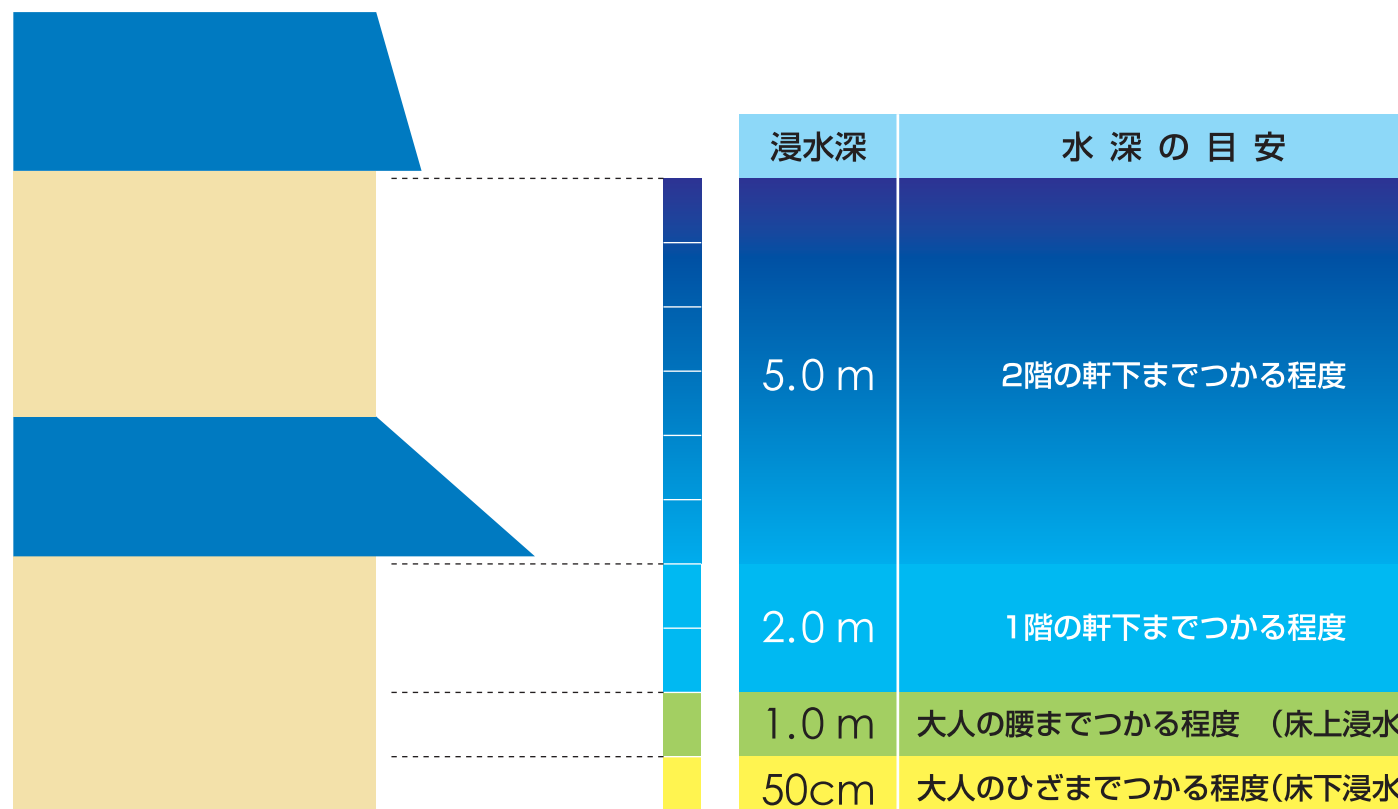


# 氾濫流到達時間

本郷地区(大石以外)	本郷地区(大石)		
3時間以内	御用地、向川原、家東、梁場上、宗原、村北、黒川、黒川内、駅前(一部)、忠堀(一部)、新用地(一部)	1時間以内	地域内全域
3時間~4時間	駅前、忠堀、新用地、忠堀向、新町、家西、川原町(一部)、瀬戸町(一部)		
4時間~5時間	瀬戸町、瀬戸屋前、北浦、川原町北、荒井、川原町、松原原、北川原、本郷道上、山道上、		
5時間~6時間	石切畑、黒澤、本郷、本郷上(一部)		
6時間~7時間	本郷上、本郷道西、寺の前、延命寺		
7時間~8時間			
8時間~9時間	本郷南大排水路までの全地区(大八郷を除く。)		

\*想定に基づく予想ですので、総雨量が想定を超える場合には浸水区域や氾濫流到達時間が異なってきます。

# 浸水時の水深の目安



# 避難時等の心構え

- 役場、消防団などからの避難勧告指示などには速やかに従う**  
川の増水などは短時間の内に一気に危険な状態になったりします。避難命令が出た時点で相当危険な状態にあるということですので、無視は命に関わる被害を出しかねません。避難指示には速やかに従いましょう。
- 一人ひとりが雨の降り方や浸水の状況に注意を払い、危険を感じたら避難勧告や避難指示が出る前でも自主的に避難しましょう。**
- 避難するときは、みんなと一緒に行動する。**  
単独で避難することは非常に危険です。川に流されてしまったり、怪我をしてしまった時、助けがやってくるまでに長い時間がかかり、命にかかわる惨事をおぼせません。移動する際は、何人かまとまって行動しましょう。
- 避難経路は高い道路を選び、道路脇の溝や水注ぎに注意しましょう。**  
\*歩行可能な水深は 大人 男性：70cm 女性：50cm 子ども：30cm が目安となります。
- 避難は、徒歩で行い、自動車での避難はやめましょう。**  
交通渋滞や道路冠水によって動けなくなる恐れがあります。
- 持ち出すものはなるべく少なく、安全な服装で。**  
荷物が多すぎても行動が鈍り、逃げ遅れることもあります。必要最低限の物を持ち出し機敏に行動できるような体勢で避難しましょう。
- 避難の際の服装は、ヘルメット、防災ずきんを着用し、ひもつきの運動靴で、裸足・長靴は厳禁です。(長靴は水が入り動きにくくなります。)**

- お年寄りや子どもを優先し、落ち着いて行動する。**  
避難する時あわてて行動すると、お年寄りや小さな子どもなどの弱者が危険な目に遭うケースが少なくありません。水防機関などの指示に従って落ち着いて行動しましょう。また、浮き袋があれば持たせるようにしましょう。
- 災害弱者の避難に協力する。**  
ご近所にひとり暮らしのお年寄り、体の不自由な方はいませんか。このような方の避難には地域の協力が必要です。積極的に協力しましょう。
- 【高齢者・寝たきりの方】**  
■緊急時はおぶって安全な場所まで避難する。 ■複数の介助者で対応する。  
■不安を取り除くように声をかける。
- 【耳か不自由な方】**  
■話す時は、口の開け方をハッキリとし、相手にわかりやすいようにする。  
■手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。
- 【目の不自由な方】**  
■緊急時には、声をかけ情報を伝える。  
■誘導する場合は、杖を持ったほうの手には触れず、ひじのあたりを軽くもってもらい半歩前をゆっくり歩く。
- 【肢体の不自由な方】**  
■階段では、2人以上が付き添い、上りは前向き、下りは後ろ向きに移動する。  
■介助者が1人の場合、おぶひもなどでおぶって避難する。
- 【知的障害のある方】**  
■災害時の行動を日頃から繰り返して聞かせておく。  
■避難時はあわてないように優しい声で指示を出すか、手をとって安全な行動を促す。